



鳥羽市は「自ら学び心豊かにたくましく生きようとする人間の育成」を目標としています。

とばし教育委員会だより

2020.4.1 第19号



2月2日相差町において「第5回石神さんマラソン大会」が行われました。地元の小中学生がボランティアとして参加し、地域の行事で大活躍しました。子どもたちの頑張りに、拍手です!!

令和2年度 教育予算の概要をお知らせします

4月に入り、新年度がスタートしました。気持ちも新たに、令和2年度の鳥羽市教育委員会の主な事業や取り組みについてご紹介します。

外国語教育の推進

○英語検定チャレンジ 714千円

英語によるコミュニケーション力の向上と国際感覚の育成を図ります。小学校6年生、中学校2年生は全員。中学校1年生は希望者が受検します。

○外国人英語指導助手(ALT)増員 12,871千円

本年度より1名増の3名体制になり、ALTが終日、各校にて外国語指導や児童生徒とふれあい、生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会の創出を行います。

海洋教育の推進

○活力ある学校づくり事業(小中学校) 2,850千円

各小中学校において鳥羽の特色を生かした体験学習や海の博物館、新水産研究所などを活用し、児童生徒が海洋教育を学ぶための機会の創出を行います。

○鳥羽が好きふさと給食 795千円

年2回、鳥羽の食材を使い生産者の思いを伝えるとともに、食育の授業を通して鳥羽を知り郷土愛を育むことを目的に行います。

スポーツの振興

○東京2020オリパラ推進事業 2,172千円

4月8日に行われる東京2020オリンピック聖火リレーなどの事業を実施します。

○国民体育大会準備事業 27,500千円

三重とこわか国体鳥羽市実行委員会において、国体のリハーサル大会として、12月に「全日本フェンシング選手権大会(団体戦)」を開催するほか、令和3年の「三重とこわか国体」に向けて開催気運の醸成を図るため、フェンシング普及事業などを実施します。

社会教育の振興

○図書館運営事業 38,430千円

図書館をより多くの方に活用していただけるよう、開館時間の変更や定休日としていた毎週月曜日も開館し、利用者サービスの充実に努めます。また、鳥羽市子ども読書活動推進計画について、令和3年度からの計画を策定し、引き続き豊かな読書環境づくりに取り組んでいきます。

○人材育成講座「地球塾」事業 51千円

地域の方々が地元の歴史や文化を学ぶ機会を創出し、地域学習の推進と郷土愛の醸成につなげていきます。市内の小学生については、平成30年度から歴史学習本「とばっこ探偵団」を活用して郷土学習を進めていますが、4年生での「御木本幸吉」学習、5年生での「海女」学習に続き、令和2年度からは、6年生が「鳥羽城と九鬼嘉隆」学習に取り組めます。

安全・安心な学校づくり

○学校施設の改修、修繕事業 12,618千円

「安全・安心・快適」をテーマに市内の小中学校、幼稚園の施設、設備の改修や修繕を行います。

○学校施設備品購入事業 11,626千円

鏡浦小学校と安楽島小学校統合準備のため、スクールバスを購入します。また、児童生徒等の学習環境の充実のため、学校備品を購入します。

※主な予算を抜粋して掲示しています。詳細は市HPをご覧ください。<https://www.city.toba.mie.jp/zaimu/yosan.html>



今年度の園児・児童・生徒数

令和2年度の園・学校数と園児・児童・生徒数(予定)は次のとおりです。

(幼稚園)1園、園児数40名 (小学校)8校、児童数683名 (中学校)5校、生徒数415名



いわお とよき
岩尾 豊紀さん

平成23年から鳥羽市水産研究所勤務。ワカメや黒ノリの種苗生産や藻場再生活動に従事。元来、海や水産にほとんど興味がなかったが、大学での10年に及ぶ海藻研究とその後の研究所勤務のおかげでどちらかというと好きで詳しいジャンルに。クラシック音楽と映画の鑑賞を好むインドア派。

これからの海洋教育について

海洋教育では「海洋と人類の共生」をその課題としています。スケールが大きいですが、さらに地球環境の変化や海洋資源や国土に関する国際的な認識の変化、さらにSDGsを視野に入れ、それらの学びを将来に活かせるような人材育成のための教育を、と。

そのあたりの事情に明るい方もいると思いますが、多くはないでしょう。ましてや、実際に教えるとなると何からどのように学習させていけばいいのか計画するのも難しそうです。だって、教える側も海や海と人間活動というものに関して学ぶ機会なんてあまりなかったですものね。それでも教える側も教わる側も興がのつてくれればどんな高度な内容に到達できると思います。それにはスムーズな導入、海洋学習への準備運動が大切です。

鳥羽では実に簡単です。海の見える場所へ行けばいいのです。海そのものの話、気象の話、生き物や環境、歴史や経済、文化風俗の話。港にあるものを英語で表すのもいいでしょう。違う海がある地域、海のない地域から引越してきた子供や先生の話も重要です。とにかく情報伝達が双方向にできる状態にすることが肝要です。

海洋教育でしっかり教えていきたいことのひとつに、人類はまだまだ海のことを多くは知らないということがあります。それでも知ろうと努力していることも。我々はどうのような仕事、暮らしをしていても地球環境から逃れることはできません。翻弄され、トライアルを重ね続けるのです。この海洋教育が、人類が重ねてきた地球資源の利用の歴史を、奪取や寄生ではなく共生関係にするための学びにできればいいなと考えています。

海の博物館の海女展示を
一部リニューアルしました！

令和元年5月20日に「海女(Ama)に出逢えるまち鳥羽(志摩)」が文化庁の日本遺産に認定されました。

これを受けて、教育委員会では、浦村町にある市立海の博物館を日本遺産「海女」のストーリーを発信する拠点施設として強化するため、海女振興協議会の協力を得て国の補助事業を活用し、館内の海女の展示の一部リニューアルを行いました。

海女のすごさを体感してもらうため、海女の潜る深さをタペストリーで表現したほか、海女目線で撮影した漁の様子が観られる映像展示、船人海女の様子を表現した写真撮影スポットなどが新たに加わりました。

今年のGWには新しい展示が加わった海の博物館にぜひ、お出かけください！



伝統となつてゐる『ふるわし学習』

答志中学校

答志中学校では、地域に学び、地域を誇りに思つ心を育てる『ふるさと学習』を行つています。中でも30年以上続いている「ワカメ養殖体験学習」は本校ならではの伝統的な取組で、毎年1年生が中心になつて学習を進めています。ワカメ養殖は答志島の重要な産業です。PTA組織に「ワカメ委員」という役割があり、ワカメ漁師の方がこの役割を務め、全面的に協力してくださいませ。種付けや水替えなどワカメの種の管理を見学したり、沖出しや刈り取りといった貴重な体験をさせていただいたりしています。ワカメ委員さんは、立派に育つたワカメを生徒に刈り取ってもらおうと、丹精込めてワカメを育ててくれます。今年度は刈り取りの直前に海が大荒れで、ワカメがちぎれてしまわないか心配されましたが、みんなの願いがかなつて例年と同じよう

に大きく成長したワカメを刈り取ることができました。小学校5・6年生、PTAの役員さんや地域の皆さんも多数応援に来てくださいました。最後に、1年間学んだことをまとめて3月上旬に全校生徒、保護者に発表します。地球温暖化や後継者の問題など、取り巻く状況は厳しいですが、この地域ぐるみの伝統ある取組を今後も継続させていただきます。



「石神さんマラソン」のボランティア活動で輝く小中学生

長岡中学校

今年で5回目を迎えた「石神さんマラソン」。地元の町内会や実行委員会が中心となつて運営し、年々盛り上がりを見せています。

町をあげてのイベントは、小中学生も重要な運営の担い手です。第1回目の大会から、給水所・給食所、ゴール付近での計測タグ外しと大活躍です。

今年、弘道小学校では、5・6年生に参加を募り、主に給水所でドリンクを配りながら、大きな声でランナーの皆さんにエールを送りました。

長岡中学校では、1・2年生を中心に、およそ20名が自主的に参加しました。笑顔で参加ランナーの皆さんに「頑張ってください。」と声を掛けて参加賞を渡したり、ゴール後のタイ

ム計測用のチップの回収をしたりしました。参加したランナーから「ゴールして疲れているところを、ボランティアの中学生に声をかけてもらいながらチップを外してもらい、とても感激しました。」という感謝のお手紙をいただいたこともありました。生徒たちも、マラソン出場者やイベント参加者との交流を楽しんでおり、たくさんの方々とは触れ合ういい機会になりました。



ご意見ご要望をお寄せ下さい